

～現在の中部電力 MIRAI TOWER～

幾多の困難を乗り越えて誕生した 名古屋テレビ塔

鉄塔として初の国重要文化財に指定



1954年開業の名古屋市中区錦3丁目にある名古屋テレビ塔（現在の中部電力 MIRAI TOWER）が国の重要文化財に指定された。国内初のテレビ放送用集約電波鉄塔として誕生した名古屋テレビ塔だが、技術的にも歴史的にも価値の高いものとして評価された。名古屋テレビ塔株式会社社長の大澤和宏氏に名古屋の戦後復興のシンボルから重要文化財に指定された今昔を語ってもらった。

——国内初の集約電波鉄塔が名古屋に誕生したいきさつは？

大澤社長 幾多の困難を乗り越えて誕生。1952年に郵政省（現在の総務省）は京浜、名古屋、京阪神にテレビ用チャンネル割当を決定。名古屋でその実現に奮闘したのが神野金之助氏（名古屋テレビ塔株式会社初代社長）と田淵寿郎氏（名古屋の戦後復興計画を指揮した名古屋市助役）です。名古屋は広い濃尾平野で、平地に高い鉄塔を建設する必要があり、名古屋の戦後復興計画の目玉である100メートル道路「久屋大通」の真ん中に建てる計画が上がりました。しかし、道路上の建設は難航を極めた。

また、当時は鉄材の調達は厳しく、少ない鉄材で必要な強度を持たせる構造設計が求められ、既に多くの実績を残し塔博士といわれた内藤多伸博士の登場となりました。

一方、当時、名古屋地区には日本放送協会（NHK）と中部日本放送（CBC）の2局のチャンネル割当があり、両局が相談して1本の送信鉄塔から電波を発信する計画を進めた。3局別々の場所からスタートした東京は「名古屋テレビ塔」の4年後に東京タワーが建設され、送信鉄塔の集約化が図られました。名古屋では当初から受信者目線で受信アンテナ1本で多局が受信できるよう「名古屋テレビ塔」が建設され、